

山陽小野田市健康づくり推進協議会議事録

会議の種類	平成24年度第2回山陽小野田市健康づくり推進協議会		
日時	平成24年10月11日(木) 18:00~19:45		
場所	小野田保健センター		
出席者	厚狭郡医師会	河村芳高	(会長)
	山陽小野田市社会福祉協議会	小柳朋治	(副会長)
	小野田市医師会	松岡彰	(委員)
	小野田歯科医師会	多原康成	(委員)
	厚狭歯科医師会	嶋田修士	(委員)
	山口県薬剤師会厚狭支部	松浦純一	(委員)
	山陽小野田市ふるさとづくり協議会	杉本保喜	(委員)
	山陽小野田市自治会連合会	藤田正人	(委員)
	山陽小野田市食生活改善推進協議会	半矢幸子	(委員)
	山口宇部農業協同組合	笹木伸子	(委員)
	山口県看護協会小野田支部	建石弘子	(委員)
	山口県栄養士会宇部専門部会	坪河蓉子	(委員)
	(出席者数 12人)		
欠席者	小野田薬剤師会	野村茂正	(委員)
	山陽小野田市老人クラブ連合会	平田武	(委員)
	山陽小野田市連合女性会	岡部つや子	(委員)
	山陽小野田市小・中学校PTA連合会	平山正男	(委員)
	山陽小野田市母子保健推進協議会	吉田由美子	(委員)
	山口県歯科衛生士会小野田支部	村中洋子	(委員)
	(欠席者数 6人)		
オブザーバ	山口県宇部健康福祉センター	山崎千鶴代	
事務局	健康福祉部長 田所 栄	健康増進課長 兼本裕子	
	健康増進課技監 山根愛子	健康増進課課長補佐 深井篤	
	健康増進課課長補佐 河野静恵	成人保健係係長 石井尚子	
	健康企画係係長 岡村敦子	健康企画係主事 竹森和貴	

<p>会議次第</p>	<p>1. あいさつ 2. 新委員紹介 3. 議事 (1) SOS健康づくり計画中間評価について (2) 第3回SOS健康フェスタについて (3) がん検診未受験者対策(意見交換) (4) その他 4. その他</p>
<p>1. 部長 あいさつ 2. 新委員 3. 議事 事務局 会 長 会 長 委 員 事務局 委 員 事務局 委 員 事務局 委 員 事務局 委 員 事務局 委 員</p>	<p>SOS おきよう体操を参加者全員で行う。</p> <p>部長によるあいさつ。</p> <p>新委員の紹介。</p> <p>(1) SOS健康づくり計画中間評価について</p> <p>資料・配布物について説明 この41項目あるアンケートはかたつむりでいこう会が作った。5年間の取り組みの評価をする大切なアンケートのため、ぜひ御協力をお願いしたい。</p> <p>それでは、なにか意見、質問等ないか。 前回のアンケートは約30項目だったが回収率はどうだったのか。 前回の回収率は87.7%である。 アンケートの対象が15歳以上ということだが、学校関係にはお願いに廻ったのか。 学校関係は廻っていない。前回のアンケートで15歳以下の回答がなかった。中間評価として前回との比較をするため、今回は15歳以上という年齢制限をつけた。 15歳以上から回収したいのなら、市内の高等学校を廻るなど何かアクションをおこしたほうが良いのではないか。 まずは、今回お願いさせていただいたアンケートを回収し、データ入力をしてみてデータが少ない年齢にアプローチしていこうと考えている。 高等学校を廻るのは良いが、住所が山陽小野田市の生徒に限定しなければならないのではないか。市内の高等学校を廻るのならば早いほうが良い。 高等学校への働きかけは今後の参考にさせていただく。あくまでも今回の中間評価アンケートは前回との変化を見る事が目的である。 小学生は対象にはならないが、親子さんにアンケートをお願いすることは良いか。もし良いならば、かなり高い回収率を期待できる。 前回のアンケートにも15歳以上という年齢制限はあったのか。 前回のアンケートでは年齢制限はなかった。 15歳以上という年齢制限を加えたことで新たに増やしたアンケート項</p>

事務局 会 長	<p>目はあるか。</p> <p>年齢制限を加えたことによって増やしたアンケート項目はない。前回のアンケートとの比較をしやすくするために15歳以上という年齢制限を加えたということである。アンケートの回収を積極的に実施していただくようお願いしたい。</p>
	<p>(2)第3回健康フェスタについて</p>
事務局 会 長	<p>資料・配布物について説明。</p> <p>出店も多きにぎやかなフェスタになりそうで期待している。それでは、なにか意見、質問等ないか。</p>
委 員 事務局	<p>骨粗鬆症セミナーはステージで行うのか。</p> <p>講話はステージ下で実施し、骨密度測定はブースで行う。</p>
委 員 事務局	<p>雨天のときはどうするのか。</p> <p>食事ができるブースにはテントを立てて対応する。</p>
委 員 事務局	<p>今年度も外で食事を摂れるようにするのか。</p> <p>外でも食事を摂れるようにする。</p>
委 員 事務局	<p>去年は外で食事をして、そのまま帰る方が多かった。できるだけステージの前で食事をしてもらうようにしたほうが良いのではないか。</p> <p>ウォーキングに参加した者はセミナーに間に合わないのではないか。</p>
委 員 事務局	<p>去年は50人が急にいなくなった会場が少しさびしい雰囲気になってしまった。また、ウォーキング後にイベントが何もないという意見もあった。このため、今回は早めに出発することにした。</p>
委 員 事務局	<p>やはりウォーキング参加者もセミナーに参加できる方が良いのではないか。</p> <p>チラシに「セミナー先着50名」とあるがどういう意味か。</p>
委 員 事務局	<p>先着50名という限定感を出すことで市民の方を呼び込もうと考えた。また、セミナーを円滑に進めていくためにも人数を把握しておきたかった。</p>
委 員 事務局	<p>事前に申し込まなければセミナーには参加できないということか。</p> <p>当日の申込みでも参加可能である。</p>
委 員 事務局	<p>40歳以上の女性のみが対象か。</p> <p>40歳以上の女性のみが対象である。</p>
委 員 事務局	<p>前回と比べてセミナーの宣伝が弱いのではないか。</p> <p>前回のフェスタは食育フェスタとの合同開催であったため、大規模な宣伝を実施できたが、今回に関しては合同ではないため予算の面でむずかしいという問題もある。</p>
委 員 事務局	<p>元気のりのり汁の試食券はウォーキングに参加した者がもらえるということか。</p>
事務局	<p>前回のフェスタではウォーキングに参加した方々が戻ってこられた頃には元気のりのり汁が無くなっており、食べる事が出来なかった。この反省を活かし、今回試食券を用意することにした。</p>

委員 事務局 会長	<p>反射板は交通安全協会からもらったものか。 交通安全協会から頂いたものである。 限られた予算の中ではあるが、去年に負けなくらいお客様が来ることを期待している。皆様にも御協力をお願いしたい。</p>
委員 事務局	<p>出店者会議はいつか。前日準備、当日準備の開始時間は何時からか。 出店者会議は10月25日（木）の18時から19時、保健センター。 前日準備は11月17日（土）の13時からを予定。 当日は8時30分から準備が出来る。 個々の参加団体とはそれぞれ打ち合わせを進めている状況である。</p> <p>（3）がん検診未受診者対策（意見交換）</p>
事務局 会長 委員 事務局	<p>資料について説明。 ぜひみなさま一人一人に意見を頂きたい。質問、意見等ないか。 無料クーポンの効果はどうだったのか。 平成23年度クーポン券の利用率は22.89%であった。今後さらに利用率を高めるように取り組んでいく必要がある。</p>
委員 事務局	<p>若干の効果はあったということか。 子宮がん検診については無料クーポンを配布する前の平成20年度では20歳、25歳、30歳の受診件数は0件であった。しかし、平成21年度には20歳が23件、25歳が65件、30歳が93件となっており無料クーポンの効果によるものと考えている。 また、むすめに届いた無料クーポン券を親が使うよう勧めるケースもあった。</p>
委員 事務局	<p>肺がん検診の受診率が平成21年度から平成22年度にかけて飛躍的に伸びているが何が理由と考えられるか。 肺がん検診は胸のレントゲンを撮るだけであること、医療機関で個別検診が開始したことや市の検診では無料で受けることが出来るため積極的に勧めることが出来たからであると考えている。</p>
委員 委員 委員 事務局 委員	<p>チラシ等を配る際は健診を勧めるような声かけも実施しているのか。 食生活改善推進員ではチラシを配るだけでなく面談を実施している。 食生活改善推進員と健康推進員はそれぞれ何名ずついるのか。 食生活改善推進員が約200名、健康推進員が約230名である。</p>
事務局 委員	<p>乳がん検診や大腸がん検診の無料クーポンに61歳までという年齢制限があるのはなぜか。 働き盛りの方々に無料クーポンを使ってがん検診を受けていただくことで仕事を退職された後もがん検診を受けていただけるように61歳という年齢制限になっている。</p>
委員 事務局 会長	<p>乳がん検診の受診率が平成22年度から平成23年度にかけて減少しているのはなぜか。 原因は把握できていない。 それでは、どうすれば受診率を上げることが出来るのかを聞きたい。</p>

委員	乳がん、子宮がん検診は2年に一度で良いのか。
事務局	個別のケースによって例外はあるが、基本は2年に一度。隔年で十分な効果があると厚生労働省が定めている。
委員	自分自身、年齢的にもまだ若いということもあり、検診に行こうとはなかなか思わない。広報等での呼びかけや、無料クーポンがあったとしても行かないと思う。やはり、身近な人から誘われることが一番効果的であると感じる。
委員	無料クーポンの年齢制限が検診自体の年齢制限だと勘違いしている人が多いのではないか。
事務局	この点に関しては勘違いが発生しないように広報等での表現には細心の注意を払っている。
委員	検診は怖いというイメージがあると思う。このため、もっと検診を受けることでのメリットをアピールしていく必要があるのではないか。
委員	市には、がんの体験談集を配布してもらいたい。がんの体験談を読むことでがんの怖さ、検診の大切さを感じてほしい。国には若者にマスメディア等を通じてがんの恐ろしさ、検診の大切さをアピールして欲しい。
委員	事業所への働きかけが重要ではないか。
委員	山陽小野田市民であっても大学に通うためなどで市内に住んでいない人たちは受診できないのではないか。
事務局	市によって医療機関等との契約内容が異なるため、どこの市でも受診できるという仕組みにはなっていない。
委員	みなさまの意見が大変参考になった。住民一人一人のがん検診に対する意識を向上させていくことがまずは大切であると感じる。このため、今回のSOS健康フェスタでがんに関する取組みが入っていないことに問題を感じる。小野田市医師会はがんに関する取組みをSOS健康フェスタで実施したいと思う。3人に1人ががんになる時代である。がんの怖さと早期発見の大切さをアピールできるような取組みを実施したい。
委員	集団検診と個別健診の違いはなにか。
事務局	検査の内容自体はかわらない。ひとつの場所に集まって様々な検診を受けていただくのが集団検診。かかりつけ医などで個別に検診を受けて頂くのが個別検診である。
委員	事業所にがん検診のアピールが足りないのではないか。事業所への働きかけに対する目標等は決まっていないか。
事務局	決まっていない。市の検診の対象者は他では検診ができない方である。このため、事業所で検診を受ける体制が整っている事業所の従業員は対象に入らない。また、事業所の中で山陽小野田市民である方と市民でない方との区別が把握し切れていない。このため、受診率の算出時も40歳以上の人口から第2次・3次産業就労者、要介護者4・5を引いてから計算を行う。 事業所への働きかけについては今後、商工会議所との連携をさらに図っていく。現在行っている取り組みとしてはチラシ配布、タクシーにがん検診のシールを貼るなどがある。

委員	キーワードは「いかに身近にがんを感じるか」ということだと思う。先ほども意見の中に出てきたがんの体験談などを通してがんの怖さだけでなく、検診による早期発見のすばらしさを感じてもらいたい。また、キャラクターなどを使ってアピールしていく事も大切だと思う。
事務局	がん検診のキャラクター等も活用してしっかりがんの早期発見の大切さをアピールしていきたい。
会長	良い意見がたくさん聞けたと思う。個人情報保護等の理由で健康推進員にとっては活動しにくい状況であるとは思いますがやはり、健康推進員の働きが今後も非常に大切になってくる。早期発見の大切さ、検診を受けることでのメリットをしっかりとアピールしていくことも大切である。
会長	全体を通して何か質問はないか。
	(4) その他 (意見なし)
4. その他	
事務局	次回の健康づくり推進協議会の日程を決めたい。
事務局	席に配付してあるピンクリボンを身につけて身近な方々に乳がん検診のアピールをお願いしたい。
事務局	本日はお忙しい中お集まり頂き、貴重なご意見を頂けた事に感謝したい。今後の保健事業に活かしていきたい。
	平成 24 年度第 3 回開催予定 日付 平成 25 年 2 月 28 日 (木) 時間 18 : 00 ~ 場所 小野田保健センター